

## 令和6年度 人生いきいきノート(終活支援ノート)の配布状況に係るアンケート調査結果

## 1. 目的

在宅医療・介護等連携推進協議会では、在宅医療・介護、人生いきいきノートを活用した人生会議(ACP)等についての情報提供を行い、市民一人ひとりが、在宅医療・介護を受ける選択肢を持ち、人生の最期まで自身や家族が望む医療やケアを受ける人を増やすために、人生いきいきノートの普及啓発を図っている。人生いきいきノート(終活支援ノート)の配布状況や課題を把握するとともに、改善策についても聴取することで、今後の人生いきいきノートの有効活用・普及、ACPの推進に反映させることを目的に調査を実施する。

2. 実施期間 令和6年11月25日～12月25日

3. 実施方法 電子申請システムによるWeb回答

## 4. 調査対象者

人生いきいきノート(終活支援ノート)配布事業所の管理者及び従事者

- (1) 地域包括支援センター
- (2) 居宅介護支援事業所
- (3) 小規模多機能型居宅介護事業所
- (4) 看護小規模多機能型居宅介護事業所
- (5) 保険会社

## 5. 調査内容

人生いきいきノート(終活支援ノート)の配布に関する現状や課題、改善策を把握するための設問

## 6. アンケート回答状況

## (1) 事業所別

事業所種別	回答者数
地域包括支援センター	22
居宅介護支援事業所	75
小規模多機能型居宅介護事業所	6
看護小規模多機能型居宅介護事業所	1
保険会社	1
計	105

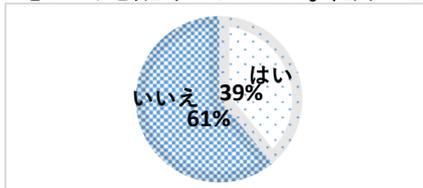
## (2) 職種別

職種	回答者数	職種	回答者数	職種	回答者数
保健師	3	看護師	6	社会福祉士	10
介護支援専門員	79	介護福祉士	4	事務職	2
その他(社会福祉主事)	1				

## 7. アンケート結果

### (1) 令和6年度に人生いきいきノートを配布しましたか。(4月～10月)

はい	41
いいえ	64



「はい」を選択した方のみ

#### 1) 人生いきいきノートはどのような対象者に配布しましたか。(複数回答可)

①元気な方(一般住民等)	21
②支援・介護の認定はあるが、終末期ではない方	20
③予後不良な方	1
④終末医療、看取りを考える必要のある方	5
⑤その他(家族)	2

(参考) 事業所種別

	①	②	③	④	⑤
地域包括支援センター	14	5	0	1	0
居宅介護支援事業所	4	12	1	4	1
小規模多機能型居宅介護事業所	2	2	0	0	1
看護小規模多機能型居宅介護事業所	0	1	0	0	0
保険会社	1	0	0	0	0

#### 2) 人生いきいきノートはどのような機会に配布しましたか。(複数回答可)

①介護予防教室の機会に説明し、配布している	10
②対象者から希望のあった時に、配布している	19
③対象者の家族から相談をされた時に、配布している	10
④対象者または家族から希望がなくても、意図的に配布している	9
⑤その他	3

⑤その他詳細

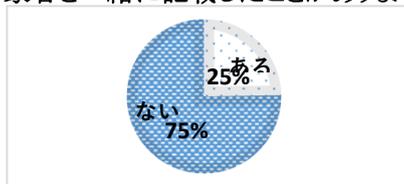
- ・要介護状態の方のモニタリング訪問時
- ・予後に不安を感じておられる方に配布
- ・利用者に終活を勧めた時

(参考) 事業所種別

	①	②	③	④	⑤
地域包括支援センター	10	11	3	0	0
居宅介護支援事業所	0	6	4	7	2
小規模多機能型居宅介護事業所	0	1	2	1	0
看護小規模多機能型居宅介護事業所	0	0	0	0	1
保険会社	0	1	1	1	0

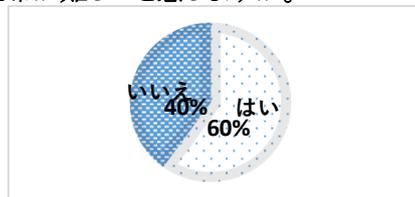
(2) 人生いきいきノートを対象者と一緒に記載したことがありますか。

ある	26
ない	79



(3) 人生いきいきノートの配布が難しいと感じますか。

はい	63
いいえ	42



「はい」を選択した方のみ

1) 配布が難しいと感じている理由を選んでください。(複数回答可)

①終活に暗いイメージをもたれ、受け入れられにくい。	40
②予後不良な方は、人生いきいきノートの配布を勧めにくい。	42
③対象者と信頼関係がないと、説明しにくい。	31
④従事者等がどの程度まで踏み込むか判断が難しい。	37
⑤ACPについて自分の知識が乏しく説明できない。	24
⑥説明する時間がない。	12
⑦その他	4

⑦その他詳細

- ・地域の教室で配布しているが、同じ方に配布する事ができず毎年同じ地域での教室があっても配布できない。作成されてからほぼ一通りの地域に配布をした。
- ・ターミナルの方、家族には進めにくい内容である。
- ・終活を積極的に考えている方には話をしやすいが、そうでない方にはタイミングが必要。
- ・タイミングを図る必要がある。

(参考) 事業所種別

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
地域包括支援センター	6	5	6	2	1	2	1
居宅介護支援事業所	33	35	23	32	21	9	3
小規模多機能型居宅介護事業所	0	2	2	3	2	1	0
看護小規模多機能型居宅介護事業所	1	0	0	0	0	0	0
保険会社	0	0	0	0	0	0	0



(5) 人生いきいきノートの活用を広めるために何が必要だと感じますか。

①人生いきいきノートの内容をもっと簡易にする	34
②人生いきいきノートの設置場所を増やす	45
③終活・ACPについて市民に理解を求める機会を作る	67
④その他	6

(参考) 事業所種別

	①	②	③	④
地域包括支援センター	5	12	14	0
居宅介護支援事業所	25	29	48	6
小規模多機能型居宅介護事業所	4	3	4	0
看護小規模多機能型居宅介護事業所	0	0	1	0
保険会社	0	1	0	0

(5)人生いきいきノートの活用を広めるために何が必要だと感じますか。

「③終活・ACPについて市民に理解を求める機会を作る」を選択された方の効果的な方法の具体例に関するご意見

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">啓発媒体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市広報誌「市民と市政」での啓発・・・13名から意見</li> <li>・ケーブルテレビ、SNS等のメディア活用・・・7名から意見</li> <li>・市民と市政に A4 か A5 の用紙に ACP の簡単な案内を記載し挟む</li> <li>・高岡市HPの目立つ所に掲載</li> <li>・市LINE</li> <li>・人生いきいきノートの簡易版の作成</li> <li>・回覧板の利用</li> <li>・解りやすく記載されているチラシの設置</li> <li>・パンフレットの作成配布</li> <li>・YouTube 等の動画配信</li> <li>・医療機関や金融機関、店舗、交通機関、葬儀場などでのポスター掲示</li> <li>・話題にしにくい内容であるため、CM やポスター等でもっと考える機会が身近になる工夫</li> <li>・普通のニュースなどで取り上げてくれたらよい</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">配布機会</p>	<p><b>行政が行うこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員さんや自治会長さんの集まりでも啓発活動を行うといいのではないかと思います。</li> <li>・高岡市が地域の公民館に出向き配布や説明をする。集まる人は高齢者が多い。</li> <li>・地域での集まりの場(老人会や会合)などでの勉強会</li> <li>・学校で低学年から学ぼうようにしていかないと広まらないと思う</li> <li>・高齢者が多く集まる場所(公民館 医院・病院等)でリーフレットの配布や PR 活動等</li> <li>・市役所や社協のホームページに人生いきいきノートの活用方法を掲載</li> <li>・高齢になってから自分の人生を振り返る機会をつくるのではなく、子ども時代から人生の最期を考える機会をつくる。</li> </ul> <p><b>配布機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の方法や機会を増やす</li> <li>・活用方法について、以前にケーブルテレビで放映されたような寸劇やセミナーをする</li> <li>・イオンや市役所等で説明会をする。</li> <li>・啓発イベントの開催や相談窓口の開設。</li> <li>・ACPという言葉や内容を知ってもらうために、自治体等で普及啓発してもらう。</li> <li>・特定健診等の健診の機会に合わせて、啓もう活動を行う。</li> </ul> <p><b>包括が行うこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会や健康教室、体操教室などまだ元気な方の集まりなど。</li> <li>・介護教室などで ACP の勉強会や実際に記入してもらう場を設ける</li> <li>・意思を伝えられる年齢の方に配布する(プロフィール帳として)</li> </ul>

・包括の方の出前講座・介護認定を受ける前の終活の一環としてフランクに考えれる時期にとりあげてほしい。

### 居宅が行うこと

・デイやショートの実業所など(比較的元気な方を対象に)で活用促進講習会などを開催する。

### 多機関で行うこと

・現在、市民に対してどのような方法で理解を求めているのかを知らずに返答していますが、一度見聞きした程度では、興味を持たれる方は少ないかと思うので、地域の集まりやイベント、訪問などで繰り返し伝えていくのが良いかと思います。

・勉強会を行う。

・孫世代、小学生から大学生に活用講座を開催し、孫から祖父母に聞き取るような、認知症サポーター養成講座の ACP 版を医師会と包括やケアマネ部会が協働で開催したらどうか。

・介護支援専門員からの情報や説明だけでなく、もっと幅広く周知する必要があると思う。ただしマインドコントロールをするような取り組みのやり方や、世代によっては体調によっては、自分の生き方を決められない思いをもっている方が多いと思う。私自身今与えられた環境で精いっぱい生きていくことが大事との思いのほうが強く、人生いきいきノートを開いたときに何も書けなかった。周知していくには幅広く様々な分野からの発信が必要

・公民館などで住民が集まる時に説明し周知する。動画などで分かりやすく説明する。

・シニア世代に就活という言葉は浸透していると感じているが、ACP については理解が浅いと感じます。また、元気な方は自分には未だ先の話と捉えている方も少なくないと思います。地域毎に出張出前講座等を開催し、理解を深めればよいと思います。

### 地域で行うこと

・地域ごとの説明

・動画はとてわかりやすく作成されているので、より多くの方にみてもらえるように、連合自治会などを通して、放映時間などを班回覧などをしてみてはどうか。

・町内、自治会の方に人生いきいきノートを回覧板に挟んでもらうなどしてもらいまず、目を通してもらい興味を持っていただく。

・町内会等行事があったときに紹介してもらったら、個人でも具体的に話がしやすい。

・地域での集まりの機会に公民館等で講習を開いてもらう

・終活についての話がしにくいと感じることが多い。相手から言われれば話や提案ができる

・各地区での出前講座で啓発

・市民全体にもっともっと終活、ACP について理解を深めてもらう場を提供する。

・啓発活動が必要。

・市民が集まりそうな所に『終活』についてのポスターや広報にチラシ等をいれたらどうか。『人生いきいきのノート』の存在を知らない人もいますので、設置場所を増やしたりセミナー等を開催したらどうか。

・地域の回覧

・ゼミ等の公共の場が必要

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区で話し合いの機会をつくる 終活というジャンルに絞らずにイベントをたてる</li> <li>・終活について元気な時に自分自身で考えたり家族と笑いながら考えたりできる環境を醸成する。</li> <li>・自分の考えをまとめる意味も込めて自治会等、地域で配布してみる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーブルテレビで放映された時は、地域の方から欲しいとの声があった。宣伝効果はあると思います。</li> <li>・葬儀場など家族の死に直面したときに自身の終末期のことを考えていただく。</li> <li>・主治医からの説明・・・2名から意見</li> <li>・退院カンファレンスの時に提案</li> <li>・介護認定に、自身の老いや機能低下を現実視しショックな人もいるので切り出すタイミングは繊細。認定後の担当となり関わりの短い期間での話の切り出し方には難しさを感じる。</li> <li>・高齢者に携わる関係者にまず内容の周知をする事が大切なので、関係者の理解・意識を高める啓発をする。</li> <li>・Acp の体験談を市民に話していただく事が良いのではないかと思います。</li> </ul>

(5)人生いきいきノートの活用を広めるために何が必要だと感じますか。

「④その他」を選択された方のご意見

・包括やケアマネなどが、利用者のモニタリング訪問時に聞き取りしていけばいいと思う、自ずと認知症の方の意志決定支援につながると思います。認知症基本法にも位置付けられる取り組みだと思います。ただ、始める前には事前研修会を行ったほうが、トラブルなく行えると思います。

- ・気楽に使える気安さ
- ・病院の目につくところや市役所市民課の待合室に置く。入院時に渡す。もっと簡易なものでコストを抑え多く配布する
- ・「市民と市政」で紹介ページを設ける
- ・公民館や地域での啓もう活動、まずは民生委員や自治会での説明会を行う
- ・無理して勧めなくてもいいと感じる

6. その他、人生いきいきノートやACPの推進について、ご意見等があればご記入ください。

職種別のご意見

【保健師】

・活用促進のために、市民が終活に関するどういった情報をほしいと思っているのか、ニーズを細かく把握することができると思います。

【看護師】

・自分自身もきちんと理解し、必要性を感じないと利用者への利用が勧められない。

【社会福祉士】

・包括は最終まで関わる機会が少なく、介護予防やサロンの集まりの場で活用の推進をすることは難しい

【介護支援専門員】

・もっと配布できる場所を増やしたらよいと思います。薬局に置かれるのもよいと思います。

- ・成功事例の紹介などで、良いものだというイメージを持ってもらうことが大切だと思います。
- ・市民への周知が広がると良いと思う。広告が多く、仕方がないことかもしれないが、格式のようなものがなくなっている。
- ・本当は、物心ついた子供から、高齢者まで、障害が、あろうが、なかろうが、生病老死を我が事として考える文化や哲学的思考を学ぶ風土を高岡市全体で作ってほしい。教育、障害、福祉、医療、介護が協働で。
- ・包括、ケアマネジャーに対して仕事を増やしているような気がする。
- ・実際に活用したことがない為、イメージがしづらい。事例を通じての活用例の提示があると取り入れやすいと思う。
- ・家族やケアマネだけではなく、介護と医療、地域の方への説明があれば良いかと？それぞれが理解できるし質問が聞かれた際にしっかりと答える事ができるともっと幅広く活用できると思います
- ・説明して、希望されれば渡す事は出来ます！渡した方は喜んで活用してくれています。
- ・墓じまい、終活などのようにいまから周知していけば、これからの高齢者に伝わる。
- ・宣伝や広告は不要な頁だと思います。
- ・最近またノート使用や配布が下火になってきたと思いますので、近年でノート活用成功事例？があれば紹介してほしいです。
- ・利用者の身近な親族が亡くなった。親族が残念な対応だったため、そうならないために自分に人生いきいきノートが欲しいと言われた。そこに自分の思いを書きたいと言われた。身近に起きたことで考ええられた意見があった。
- ・本人が答えられない場合はどう進めてよいのか、家族の判断なのか勧められない。
- ・市民のみなさんに、もっと身近に感じられるような取り組みが必要だと思います。回覧板等、みなさんがふれやすい広報が必要だと思います。
- ・悪くなったら施設という風潮を在宅にという流れも必要なのではないかと。
- ・元気な方に配ることはできますが、やはり死を連想させるので配布が難しいことが現状です。できるだけ支援や事業者対象の時に配布することがよいと思います

#### 【介護福祉士】

- ・医療や介護に関する意思決定とした人生会議と遺産や葬儀についての終活があると思いますが、終活についてお伝えするのは少し抵抗があります。しかし、大事な話なので伝えていこうと思っています。